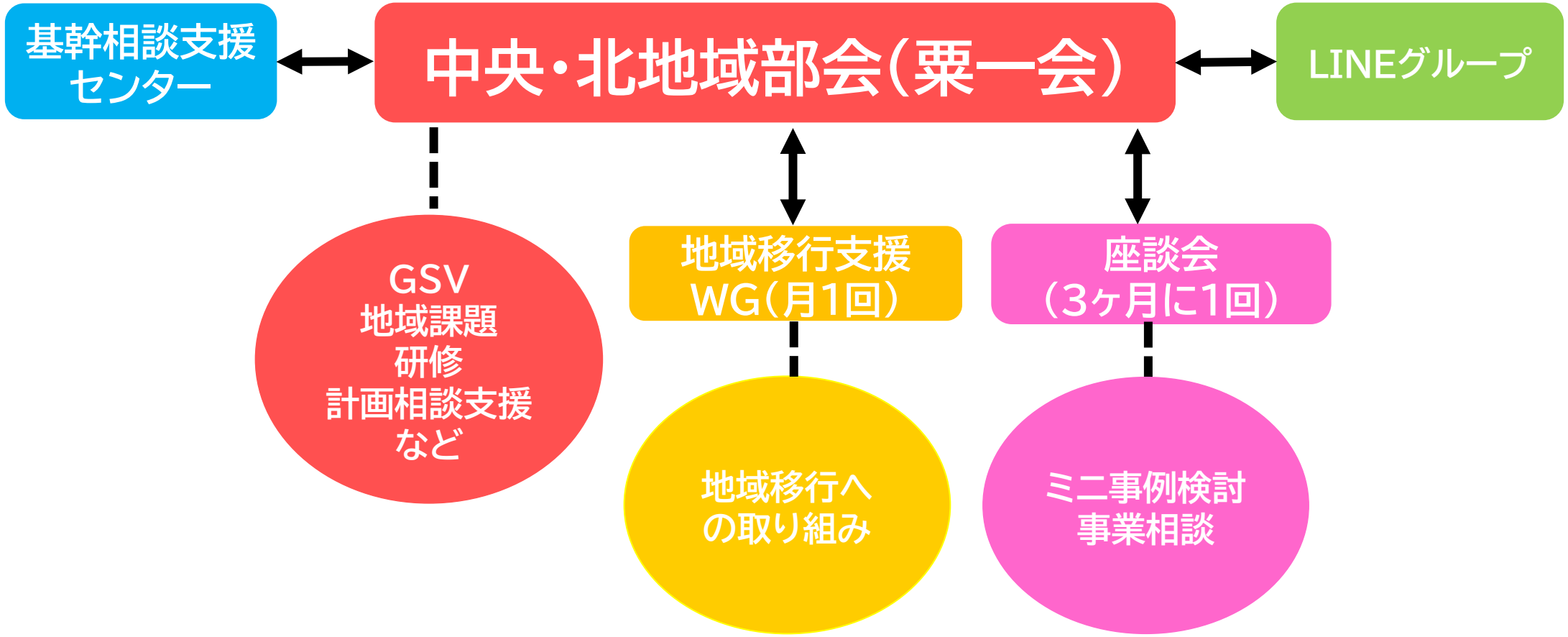
中央･北地域部会（粟一会）

令和4年度　活動報告

障害者生活支援センターこら～れ
杉山 ゆい
相談支援センター鹿田
川上 俊輔

中央・北地域部会（粟一会）について



中央・北地域部会について

メンバー　岡山市北区をエリアとしている相談支援事業所
福祉事務所、保健センター　約25名

種別	開催ペース・場所	R4年度 実績
定例会	毎月第3木曜日　13:30～15:30 北ふれあいセンター　メンタルサポートルーム オンライン	12回開催
地域移行支援WG	毎月第4(金)14:00～15:30 岡山県精神科医療センター	9回開催
情報交換会 (座談会)	5月・8月・11月の第4木曜日 13:30～15:30 北ふれあいセンター　メンタルサポートルーム	3回開催

■研修会

①『個人情報保護法について』（9月）
　講師：草下 有吾氏（株式会社サン・ソレイユ取締役）
②『総合病院と相談支援事業所の連携について』（2月）
　講師：兒子 愛子氏（岡山市立市民病院 入退院管理支援センター 地域医療支援課長）

■勉強会

①『グループスーパービジョンの基礎～地域生活支援の下支え～』（8月）
　講師：村上 眞氏（岡山市障害者基幹相談支援センター センター長）
②『総合相談支援体制について』（10月）
　講師：襟立氏（岡山市保健福祉企画総務課）
　　長畑氏（岡山市社会福祉協議会 相談支援包括化室）
③『岡山市精神障害者ピアサポート活動支援事業について』（3月）
　講師：稲山 耕平氏（岡山市健康づくり課）
　　丸橋 由希恵（社会福祉法人あすなろ福祉会）

■GSV

●8月：支援学校卒業後、サービス利用に繋がらず、本人に会うことを拒まれているケース

●12月：自傷行為が激しく自殺企図などがあり関わりに大変さを抱えているケース

●1月：「働きたかったのに退職ですか！？」A型に勤めていたが退職勧奨され退職したケース

■地域課題…課題収集（5・9月）・検討（6・10月）

・ヘルパーが少ない。特に男性ヘルパー、足守・御津・建部エリア。

・相談支援専門員が少ない。特に若い人。

・共生型事業所が少ない。特に介護保険分野から共生型になる事業所。

・不登校児に対する支援が少ない。

・コロナ発熱がある利用者が受診するまでの移動方法に迷った。

・ヘルパー事業所がコロナ感染のため、サービスが途切れる。

・児童のサービス事業所で、マスクなしでプログラムを実施。感染対策の不十分さに不安を覚える。

■各専門部会の情報共有

■情報交換会

・参加者が少ない回もあったが、情報共有、ざっくばらんに話せる場として支持がある。

・８月開催時には持ち込み企画勉強会「強度行動障害のある人への支援を考える際に～応用行動分析などを活用したアプローチ～」講師：平松啓生氏（岡山市基幹相談支援センター 副センター長）を行い、約30名が参加した。

■日中サービス支援型共同生活援助評価

・11月の地域部会で実施

・対象施設：1件（岡山市北区建部町）

■基幹相談支援センターとの連携

・GSV勉強会

・オブザーバー参加

・相談支援に必要な情報提供

■地域移行支援WG

●参加事業所

岡山市こころの健康センター、健康づくり課精神保健係
岡山市障害者基幹相談支援センター、岡山保護観察所、岡山パブリック法律事務所
精神科病院（1病院）、一般相談支援事業所（10事業所）

●振り返り

- コアメンバーで事前の打ち合わせをすることでWGを効率的に運営できている。
- ケースレビューやディスカッションに十分な時間をかけられるようになった。
- 新規参入事業所が少なく、WG参加者が固定化しつつある。
- 利用者の退院意欲喚起に向けた支援は必要だがコスト面で介入することが難しい。

●課題

- 相談支援事業所と患者が出会える機会が少ない（病院交流会など）
- 地域移行支援連携パスの運用、周知
- ピアサポーターの活用
- 中央北の地域移行支援に関する現状やニーズの把握

■成果

・地域課題について、課題収集と検討を2ヶ月連続して行うことで話し合いがスムーズに行えた。また、専門部会等にあげた課題のその後の展開を報告することで、協議会の構成が意識できた。

・GSVを3ケース実施できた。

■課題

・不参加事業所の参加促し。

・オンライン開催は一定数の参加が続いたが準備が大変なので、R5年度は感染予防対策を行い参集型で開催予定。

・日中サービス支援型共同生活援助評価で扱う件数が増えることが見込まれる。

・地域生活支援拠点事業における体制整備に関する取り組み。